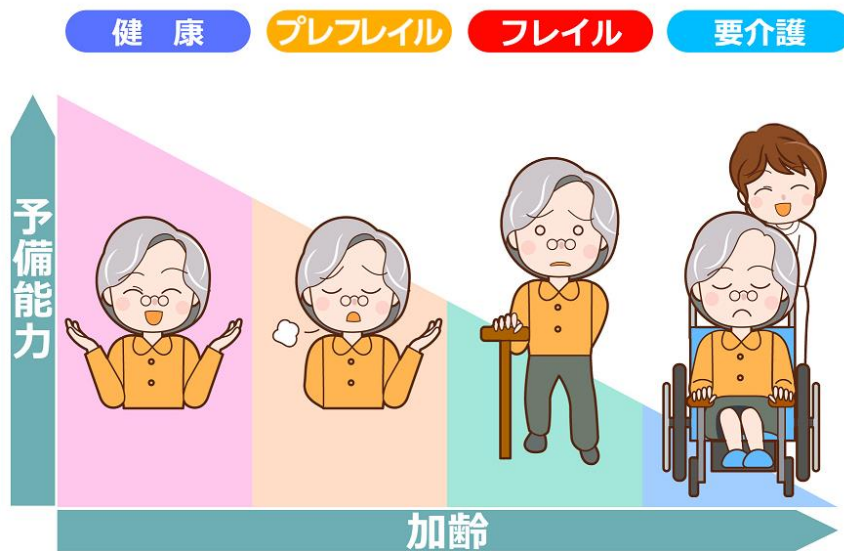


元気なときから始めるフレイル検査のすすめ

- フレイルとは「ストレスに対する脆弱性が亢進した状態」を示し「生活機能障害、要介護状態、死亡などの転機に陥りやすい状態」です（日本老年医学会 フレイルに関する日本老年医学会からのステートメント）。
- フレイルに該当する人は些細なこと、例えば軽度の感染症や小手術などで思いがけず大きな健康状態の変化を被る危険があります。そのためフレイルは介護に至る前段階の状態と位置付けられています。また多面的な問題も含有しており、身体的脆弱性を主体としながらも、精神心理的側面、社会的側面における脆弱性をも含む概念とされています。
- 70歳代の4割にフレイル状態がみられるという報告がありますが、実は40～50歳代の中にもフレイル状態の人がいることがわかってきています。



- 当センターのフレイル検査は、こうした加齢に伴って現れる主に身体機能の衰えを評価し、加えて日常生活動作（ADL）障害や認知機能についても評価を行っています。検査後の結果については当センターの担当医が説明（※）を行い、日常生活においてこういった点に注意すべきかをアドバイスしていきます。

※受診日から約3週間後に実施します。

【検査項目】 問診、握力、身体計測、体組成（筋肉量）、歩行速度、診察・指導、認知機能、身体機能

【検査費用】 16,500円（税込み）

＜ご注意ください＞

ペースメーカーを装着されている方は体組成検査を受けられません。

- 対象は50歳以上の方ですが、75歳未満の方は通常の健診項目もあわせて受診いただくことをおすすめします。
- フレイル検査を希望される方は、事前にお電話にて検査予約をお願いします。

【電 話】 06-6443-3437（直通）

受付時間：年末年始・土日祝日を除く平日 9:00～17:00



公益財団法人 日本生命済生会

日本生命病院 ニッセイ予防医学センター